

昭島市の生涯学習におけるリーダー（支援者）の発掘・養成とその活用について（答申）

はじめに：生涯学習とそのリーダーについて

生涯学習はほとんどの自治体で行政の基本計画にうたわれ、政策の各レベルにその取り組みをみることができるが、その多くは国、都道府県等が示す生涯学習の理念、必要性に関する資料の再掲や援用に止まる。生涯学習理念や推進計画にその自治体固有の特性を反映し、「だれでも、いつでも、どこでも学習」できる生涯学習社会が実体化された例は稀である。

また、「だれでも、いつでも、どこでも学習できる」社会であるためには市民一人ひとりの学習ニーズの把握を欠かせないが、広範な世代にわたる市民一人ひとりの学習ニーズの把握やそれらを活かして学習に結びつける方法や仕組みについても理念的、概念的な域を出ないのが現状である。

このように、自治体・地域の特性を反映した生涯学習理念の具体化、市民の学習ニーズの把握と活かし方等推進計画構築の土台となる基本要素が模索の状態にあるため、活動推進の鍵とみなされるリーダーに期待される役割、性格に関する意見は多様で、具体像の明確化は困難であった。これまでいろいろな段階の論議で想定されたリーダーの役割・機能は、各種グループ活動の技術指導者・コーチ・講師等から、グループの構成員であってメンバー相互の協力や活動の方向付けの中心となる活動の組織者、推進者、世話役等を期待するものまで極めて広範なものであった。

生涯学習の取り組みに関するこのような現状の中で、昭島市生涯学習基本構想委員会は「昭島市における生涯学習推進計画策定のための基本的考えかたについて」「昭島市に住むという共通の基盤に立って市民相互・市民と地域のつながりを再生し、拡大する機能を生涯学習に最もふさわしい役割」と答申した。

これらの事情を勘案し、本委員会議は、リーダーに関する審議に先立ち、わが昭島市が生涯学習によってめざすものを「あらゆる世代の市民一人ひとりの学習ニーズに基づく学習活動を支援・推進しこれによって、市民相互・地域とのつながりの強いまちづくりを実現することである」と集約した。そのうえで、市民の学習・活動をこの「まちづくり」に方向付け、実現に向かう推進の原動力となるリーダーの発掘・養成とその活用について審議し、その結果を以下にまとめ答申とする。

1. リーダーの発掘と養成に係わる基本事項

1. 学習から活動へ：学習に対する取り組みの各段階・過程がリーダー発掘と養成の機会になる

市民個々の学習ニーズが生涯学習に結び付き、活動が具体化するためには、生涯学習の目指すものが市民に理解され、共有されなくてはならない。しかし、生涯学習はその用語の普及に比べ、内容や市民生活とのかかわりは広く市民に理解されているとはいえない。従って、市民一人ひとりの

学習のニーズやその活かし方に関する学習と交流の機会・場の設定、活動を可能なものから具体化し生涯学習に対する市民の関心と理解を深めることが第一の課題である。これによって生涯学習を協力的に推進する強固な基盤の確立がはじめて期待できる。

生涯学習の理念、ねらいが市民一人ひとりの住民意識と結びつき共有されることによってリーダーの発掘や養成の発芽を促す土壌が醸成される。言い換えれば、生涯学習に関する市民の理解学習の各段階、交流の過程が最も実り多いリーダーの発掘、養成の機会と場になると考えられる。

2. リーダーの役割：学習活動の内容・経過に応じてリーダーの役割は多様化する

生涯学習に対する取り組みや推進にとって、初期の学習段階では言うまでもなく、その後の学習活動継続の上でもリーダーの負担荷重は大きな障害になり易い。また学習活動の経過、形態、学習グループ規模等によってリーダーの役割、負担の程度は一定しないと予想される。そのためリーダーの役割、機能を一つの狭いものに特定せず、つねに身近な人々のニーズに関心と注意をはらい、それらを活かし学習に結び付けるニーズの把握・学習提案リーダーと、学習活動を推進するリーダーおよび技術指導者・コーチ等以下の三つに分ける。

- 1) 同一世代、世代間にわたるニーズやそれらに関連する情報・要望の収集、とりまめを主とするニーズの把握・調整・提案リーダー
- 2) 市民生活と関連が深い生きがい、仲間づくり、地域活動、異世代間交流等市民個々のニーズを学習活動に組み込み、活動を計画・組織し推進、調整するコーディネーター・世話人の働きをする学習活動推進リーダー
- 3) 市民の自主活動グループや同好会の技術指導者・コーチ

3. 学習活動単位地域：生涯学習を推進する学習活動の基本単位を小学校地区（15地区）とする 市民相互の協力関係の強化、学習の自主性、継続性維持にとって地域性は重要な基本条件である

4. 専門職：助言者：生涯学習の着実な推進には市民の学習活動を支えるセンターとして機能し、リーダーや地域の活動を助け、援助や助言の中核となる次の専門家が、夫々複数必要である。

- 1) 市専門職員
- 2) 有識者（助言者）

II リーダーの発掘と養成

リーダーの発掘・養成の成否は、生涯学習の理念・ねらいが市民一人ひとりの住民意識と結びつき、それによって市民の生涯学習に対する理解が進み参加が確立することと表裏の関係にある。

市民が個々の学習ニーズを自覚し、ニーズと生涯学習との関係を学ぶ初期的学習とそれに続く自主的学習活動展開の二つは、ともに、リーダーの発掘と養成に欠かせない機会となる。つまり、市民生活と生涯学習の意義、生涯学習推進に関する市の取り組み・施策等に関する学習が第一段階であり、それが続く第二段階の仲間づくり、地区の学習推進に関する話し合い、学習活動の組織化、地区交流等に発展する。しかも、この過程は仲間の中にリーダーを見いだし、それを育てる機会と場を提供するだけでなく、次世代のリーダー育成の温床でもある。

この二つの段階の具体的化には、以下の1、2のような設定と取り組みが考えられる。

生涯学習に対する理解と参加を促進するための交流と学習・・・全市的交流から地域交流へ

1. 生涯学習を考えよう ― 生涯学習に期待するもの―（世代別市民交流と学習）

1 5 小学校地区の(1)~(7) から夫々5～6名が参加する 全市世代別交流と学習会

- 1) 乳幼児を持つ母親の相互交流と学習
- 2) 子どもの相互交流と学習
- 3) 若者の相互交流と学習
- 4) 働く人たちの相互交流と学習
- 5) 父親、母親の相互交流と学習
- 6) 高齢者の相互交流と学習
- 7) バリアーフリーの推進

2. 生涯学習を進めよう ― 学習ニーズを学習活動に結びつけよう（世代間交流テーマ別交流と学習）

1 5 小学校地区の以下の母体から各1人の委員（選出母体であって各母体の代表ではない）の参加による異世代にわたるテーマ別交流・学習会）

- 1) 青少年委員 2) 体育指導員 3) P T A（親） 4) 教員 5) 幼児をもつ父、母 6) 自治会
- 7) 地区高齢者会 8) 子ども会 9) リーダースクラブ 10) 学習活動に関心の深い地区市民

テーマの例： 1の交流・学習会の計画、実施等の過程で提起されると予想されるものを中心に、以下のものが挙げられる

子育て、家庭・地域の教育と学校教育、子どもと遊び場、地域と若者の活動、仕事と地域との関わり、わが町の環境と自然、近所付き合いとコミュニケーション、昭島の水わが町のゴミ問題とリサイクル、市民生活とバリアー、世代・国籍をこえた市民交流、私と昭島市の10年後の暮らし等々・・・

III リーダーの発掘・養成の実際

1. 交流・学習会の活用：世代別、異世代にわたる学習ニーズの把握・交流に取り組む過程をリーダーの発掘・養成に活かす。すなわち、初期の交流・学習会を通じて「希望学習テーマ」を調査し平行して、学習ニーズに応える「出前講座メニュー」を順次編成する。調査結果や講座メニューさらにそれらの進行経過を広報によって継続的に広く市民に報せる。これらの調査、メニュー編成、広報編集の過程で要請に応じた協力者がリーダー候補者として期待されるのは自然なことである。

2. 生涯学習モデル地区の設定と活用：リーダーの発掘・養成は市全域を対象とする前記の交流や学習会、各地域の自主的学習会に限らず、設定したモデル地区における学習テーマの設定、活動の組織化・運営に関する経験、資料を収集し、活用することも十分考えられる。

生涯学習モデル地区による交流・学習活動経験をもとに、地域の地理的、社会的特性に応じたニーズの把握、活動の進め方等実態に即したリーダー候補者の擁立、選定の経過等が他の地域やその後の学習活動推進に貴重な資料を提供するであろう。

3. 広報活動：一生涯学習ニュースの定期的発行一市全域、地区別、モデル地区の交流・学習会、出前講座の内容や各地区の活動状況等を広報紙、インターネットのホームページ等によって市民に周知し、市民の関心と参加意欲を高める。

おわりに：文化、社会、経済等全ての面にわたる急激な変化が進み、健康で豊かな生活を営むうえで市民のだれもが、新しい知識、技術、情報等を入手・活用する必要にせまられている。かつて経験したことがないほど豊富な情報が社会に溢れる一方、必要な情報を選択、入手、利用する方法と市民生活との乖離が障壁となり、市民の情報格差は拡大し続ける。

学習は、本来、個人がそのニーズと固有の方法に従って取り組む性質の活動であり、市民の学習であっても、個別の要請に応じることを行政に期待することはできない。昭島市は、市民相互・地域とのつながりの強いまちづくり行政の一環として、市民意識と強く結びついた市民の学習ニーズを尊重し、学習環境の整備、学習機会の提供、学習活動の支援等の施策による生涯学習社会の実現を目指している。自身のニーズに従って学習の機会と場を求め、学習し、学習社会を構成するのは市民の一人ひとりであり、市はそれを支援し、推進する責任を担う。

「市民相互・地域との結びつきのつよいまちづくり」の意識に基づく生涯学習推進の担い手であるリーダーを、市民の外に求めることは考え難い。またリーダーに対して知識、技術を指導する教師役を求めることは本市の生涯学習の理念やめざすものとの齟齬が大きい。市民の相互交流や学習活動の過程で学習仲間から選ばれ、育て、育てられるのが市民の学習グループに必要な真のリーダーであろう。その意味から、リーダーの発掘、養成、活用の経過が極めて重要であるだけでなく、これらの過程そのものがそのまま生涯学習具体化の重要な側面であることを重視し、答申を貫く基本とした。

第20期昭島市社会教育委員

平成10年10月1日～現在

議 長	小 川	仁
副議長	三ツ木	稚 子
委 員	矢 澤	久美子
〃	橋 本	直 一
〃	森 谷	治 男
〃	土 屋	秀 隆
〃	和 田	順 一
〃	吉 田	正 志
〃	河 村	陽 男

平成12年3月31日まで
委 員 池 谷 勇

平成12年4月20日～現在
委 員 清 水 正 孝